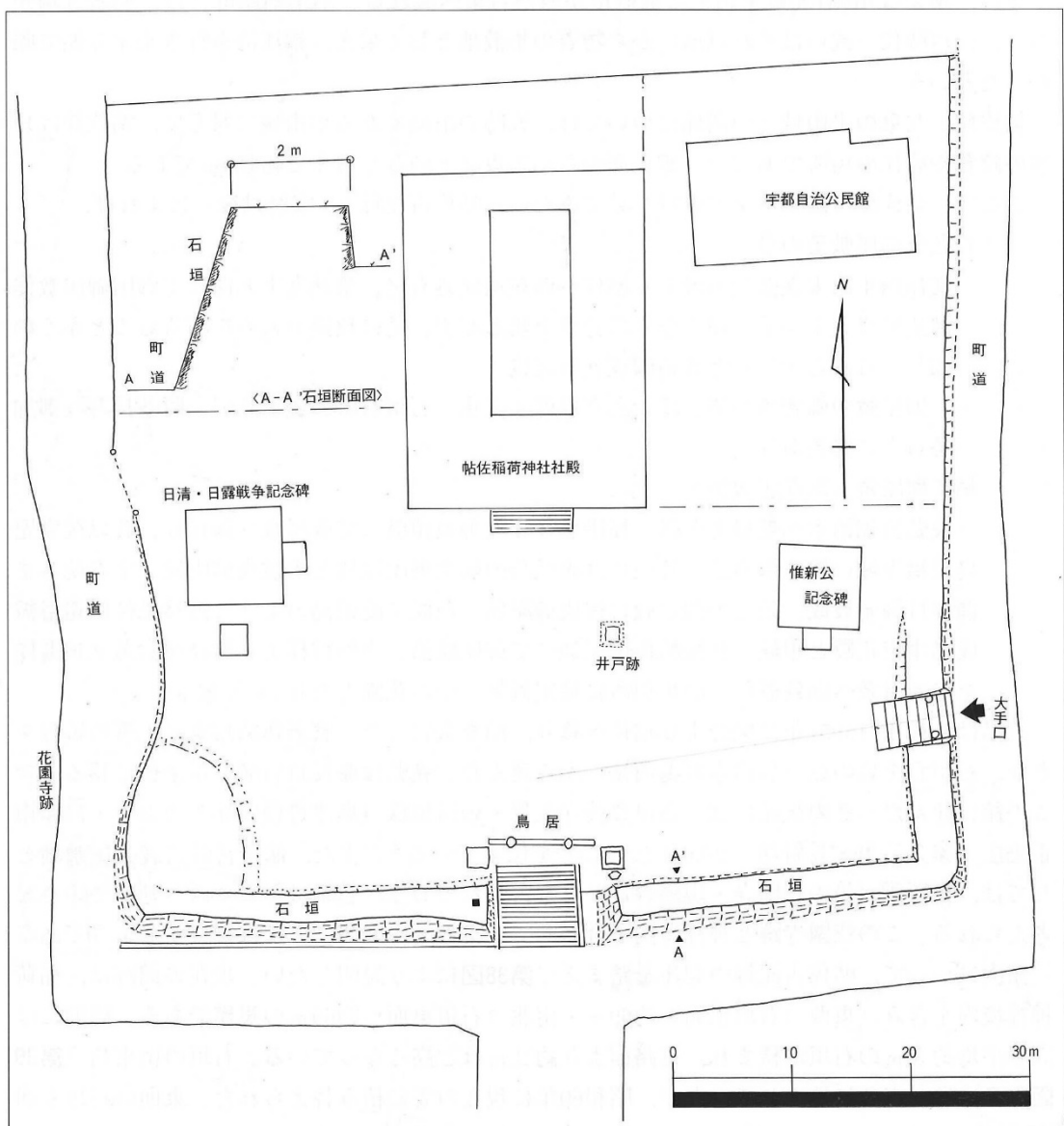


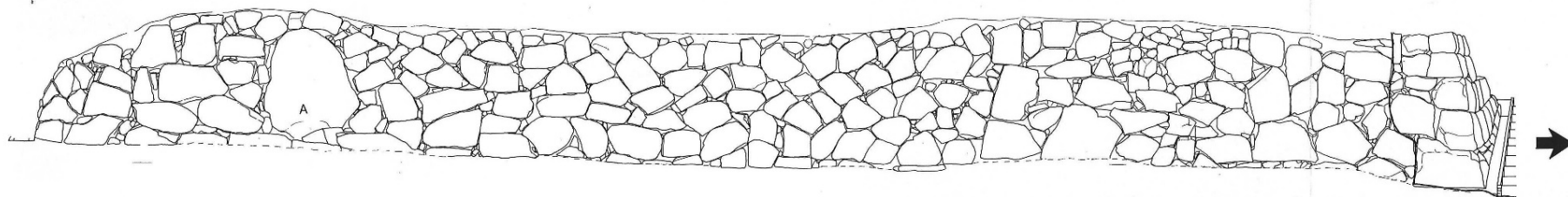
い。石垣南面にある稲荷神社参道の階段（第39図中B）は、昭和31年に新設され、その際に石垣は積み替えられたと推測される。館東の大手（第39図中D）には幅3.99mの石段があり、ホゾ穴のある礎石が左右に残る。ここへあった門は、江戸時代初めに出水麓の仮屋へ移された（現出水小学校内・出水市指定文化財）。築地について遺構はないが、第38図中断面図に示したように南辺と東辺の一部に基底幅約2m・高さ1mの基礎が残る。館内には井戸跡が今も残る。第39図の石垣実測図によれば、南面の石垣西にある大石Aが蒲生地頭阿多長寿院が運んだという御加勢石と言われている。

註①1967年 始良町文化財保護審議会 『始良町郷土誌資料 帖佐古記録・帖佐由来記』

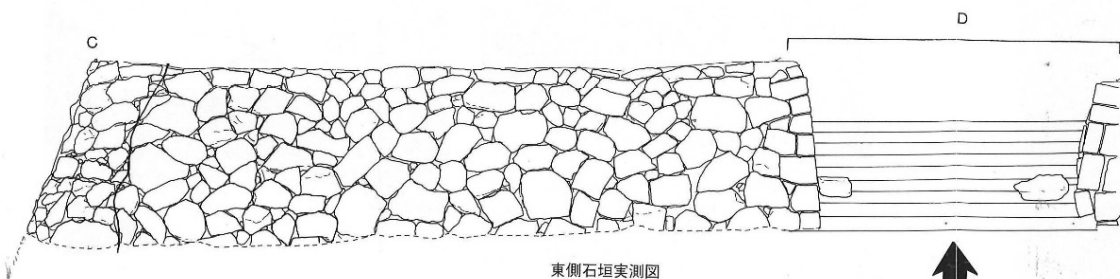
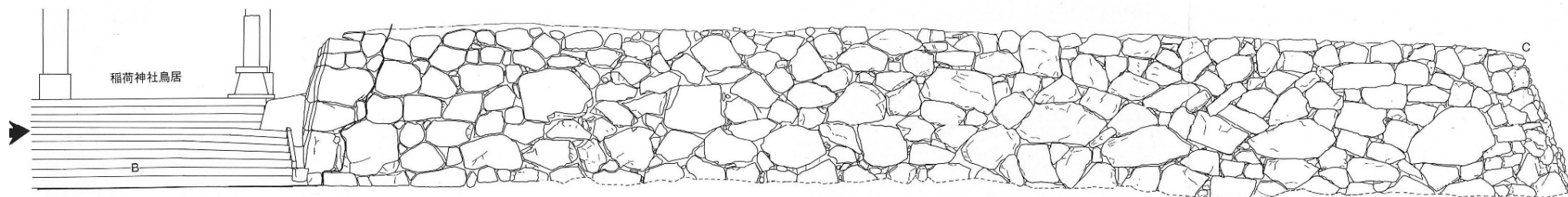
②1968年 「第八章第三節御屋地 P 178, 第九章第四節地頭政治 P 230」『始良町郷土誌』



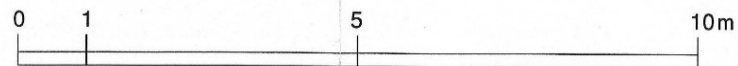
第38図 帖佐館跡実測平面図



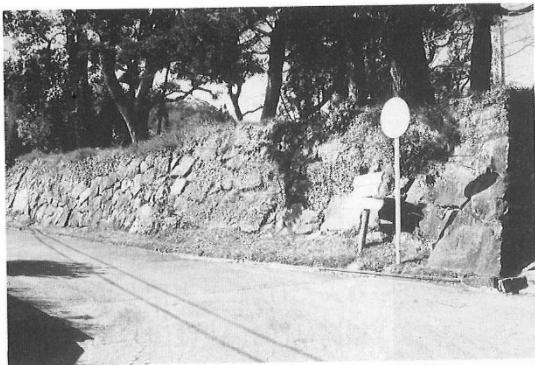
南側石垣実測図



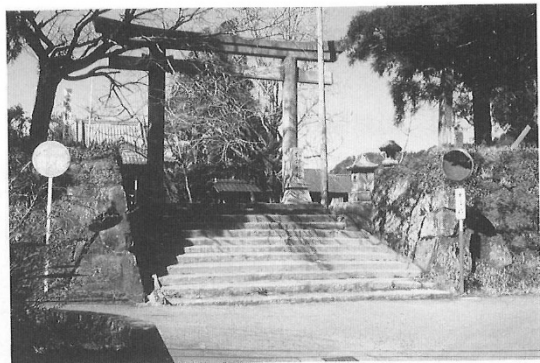
東側石垣実測図



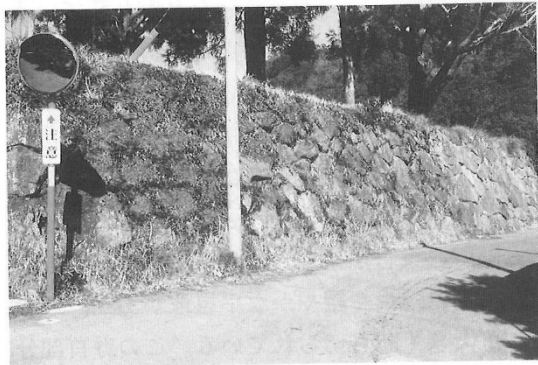
第39図 帖佐館跡石垣実測図 (折込み)



帖佐館跡石垣(南面西半分)



帖佐稻荷神社参道



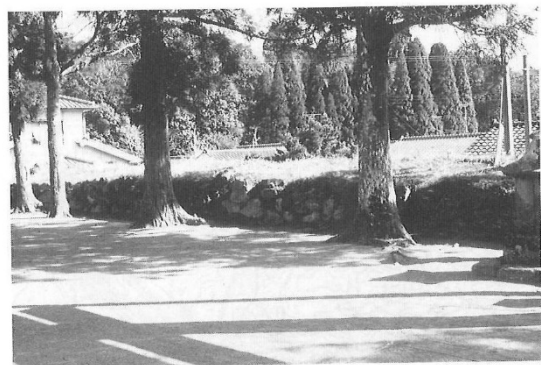
帖佐館跡石垣(南面東半分)



帖佐館跡石垣(東面・大手口)



館跡大手口



帖佐館跡石垣(裏面)



帖佐稻荷神社



井戸跡

写真25 帖佐館跡石垣・井戸跡・帖佐稻荷神社・惟新公記念碑

16 惣陣鹿倉山 所在地 平松字平田



写真26 惣陣鹿倉山遠景

惣陣鹿倉山は岩劔城から南東方向へ約1kmの位置にある。

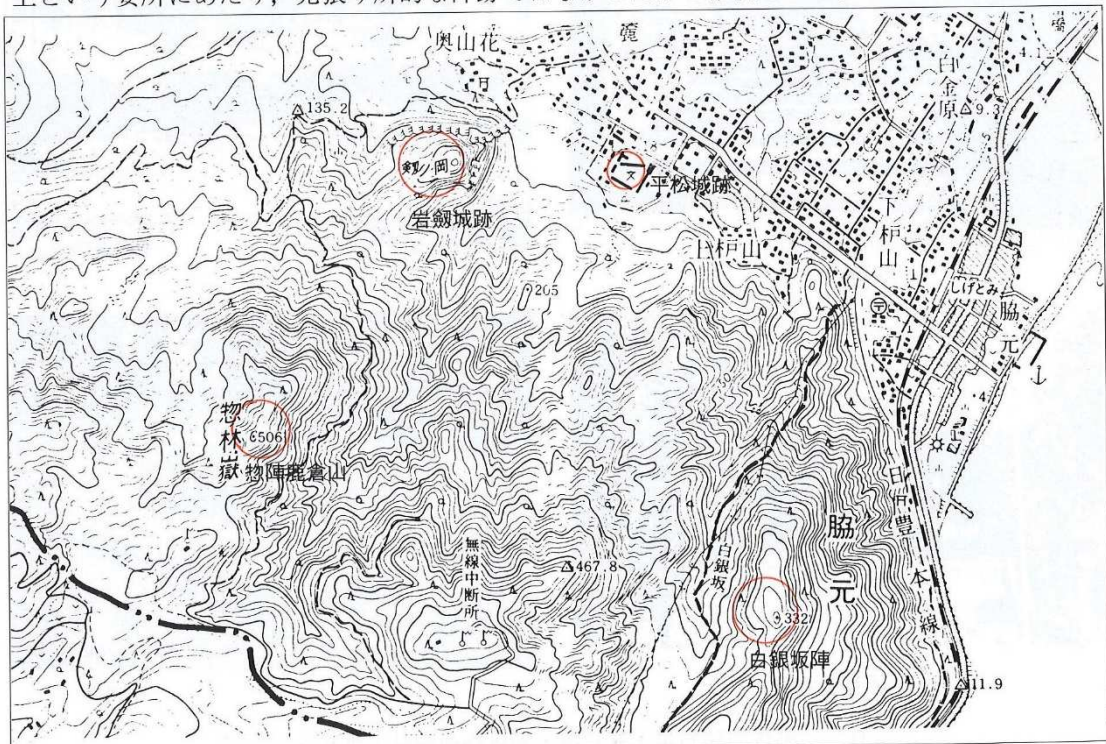
国土地理院発行の2万5千分の1地図では、「惣林嶽（そうりんだけ）」と表記してある。標高は506m。戦国時代に行われた岩劔合戦の際、この山に島津方が布陣したと言われている。

山頂部から尾根道を北へ下ると、岩劔城の野首へ至る。

山頂部には土塁や空堀などの明確な遺構は確認できない。山

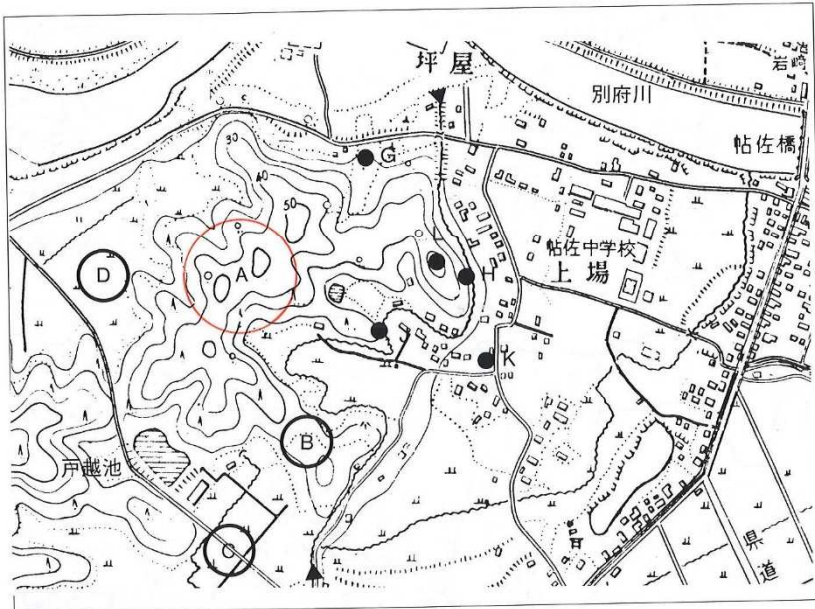
頂部北端から南の最高所へかけて2か所のU字状の狭小な土地（幅約14m×奥行4m、幅約16m×奥行5m）が見られる。また、山頂付近には随所に大石が見られるが自然石が風化したものと思われ、石垣とは確認されなかった。山頂部南側にはやや緩やかな平地があり、この山では最も広い所である。その南側は急斜面となり、大きく断ち切られている。この野首部分は自然地形と考えられ、現在は林道建設のため掘り下げて拡幅してある。南東にある白銀坂陣とは約2km離れているが連絡は容易である。

結論として、この惣陣鹿倉山は明確な遺構をとどめてはいないが、岩劔城から延びる尾根道上という要所にあたり、見張り所的な陣跡ではなかったかと推測される。



第40図 惣陣鹿倉山周辺地形図

17 茶臼城 所在地 西餅田 字小松田



第41図 茶臼城跡周辺地形図

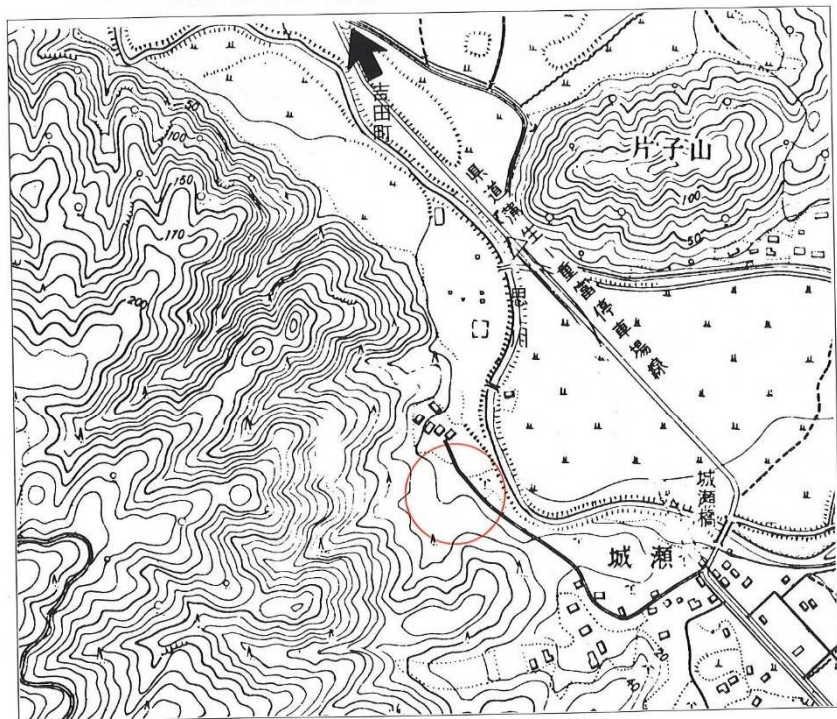
茶臼城は、標高50m・比高差約30m、別名餅田城であり、室町時代前半の城と伝えられる。第41図中の円内Aに主体部があったと思われるが、昭和58年頃の民間宅地造成工事により破壊された（Aはみさと台団地、Bは朝日ヶ丘団地、Cは青葉台団地）。第41図は開発前の地形図であり、参考のために掲載しておく。残存する東部丘陵（第41図中L）は、

平成4年8月25、29日に開発に伴う試掘調査（2m×5m）を実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。図中Gには阿弥陀堂跡、H・Kには古石塔が残る。

18 城瀬城 所在地 平松 字城瀬

城瀬は大字平松の吉田町と境を接する位置にある。

城瀬城については地元では伝承はなく、その所在地は不明である。但し、城瀬橋袂から思川右岸を西に延びる旧道が残っており、旧道脇には所々に土塁状の遺構が見られる。第42図円内には空堀とおぼしき箇所も一部に見えるため参考地として記しておく。



第42図 城瀬城跡周辺地形図

始良町文化財調査報告書（1）

始良町中世城館跡

平成6年3月31日

発行 鹿児島県始良町教育委員会
鹿児島県始良郡始良町宮島町25番地
〒899-54 TEL 0995-66-3111

印刷 測上印刷株式会社